

国際協力研修「上水道施設技術総合」 (Comprehensive Engineering on Water Supply Systems) (実施期間:2018年6月21日)

1. 本研修の概要

本研修では、上水道システム計画に従事する中心的技術者を対象に、これまでの日本の上水道施設技術に関する知見を生かし、中・大規模水道事業者が、安全な水道水を安定的に供給するための施設設計・維持管理を行うために総合的な技術に関する知見を高める。またここで得られた知見を活用し、自らの水道事業体が抱える課題を明確化し、その解決に関するフィードバックレポートを作成する。なお、本研修は、日本水道協会が受託し、2018年5月17日～7月12日に、国内の関連機関、水道事業者等と連携して研修を実施している。

2. 実施方法

本研修については、10年ほど前から講義、見学対応等の対応を行ってきた。本年は、本館棟において水安全計画に関する講義、ワークショップ（グループワーク）、別館棟の見学を実施した。プロジェクトに密接に関連した研修生や非常に進んだシステムのある国の研修生もおり、講義のあと、質疑や見学、グループワーク、発表が活発に行われた。プラント、実験室の見学もあり、先進的な内容も含め多くの質疑が行われた。公衆衛生の発展してきた歴史を感じることができたという好評であった。

3. 対象国

カンボジア（1）、エリトリア（1）、マラウィ（1）、モロッコ（2）、ミャンマー（2）、ルワンダ（1）、南スーダン（1）、スーダン（1）、ネパール（1）、ナイジェリア（1）、スリランカ（1）の計13名。

また、日本人オブザーバー（水道事業者において水道建設計画の策定を担当する職員、若しくは携わる見込みの者等。）等が同行し、合計21名であった。



講義風景



浄水プラント見学



水安全計画に関する発表



全体写真